

在ムンバイ日本国総領事館海外安全対策情報
平成29年度第4四半期（平成30年1月～3月）

1. 治安情勢

- 1月2日、ムンバイ市全域及び隣接のタネ市において、カースト制の下で最下位の不可触民ダリット数千人が、同じくムンバイ市隣接のプネ市で前日に発生した暴動で1人が死亡したことに抗議し、主要交差点を占拠して交通を妨害したり、バスに向けて投石をしたり車両へ放火するなど大規模な暴動が発生し、152人が逮捕された。邦人の被害はなかった。
- 1月23日、グジャラート州アーメダバードにおいて、ボリウッド映画「Padmaavat」の内容に反発した市民らが暴徒化し、多数の車に放火し、映画館や映画館が入るショッピングモールを襲撃するなどの暴動が発生した。
- 1月26日、ゴア州を旅行中のアメリカ人女性が、44歳のバイクタクシーの男を呼び止めてビーチまで移動するよう依頼したところ、連れ去られて性的暴行を受けた。被害者が被害の様子と容疑者の写真をFacebookに投稿し、30日、容疑者が逮捕された。
- 3月13日、チャッティスガル州スークマにおいて、極左武装組織ナクサライトの仕掛けた爆弾によって治安部隊員9名が殺害された。ナクサライトは毎年3月から6月にかけて対治安部隊への反抗を強化し、同期間では特に多くの爆弾事件や治安部隊との間での銃撃戦が発生している。
- 3月16日、マハーラーシュトラ州プネ市で、バングラディッシュからの不法移民で、バングラディッシュでその活動を禁止されているアル・カーイダ系テログループとつながりがあると見られている男3名が当局に逮捕された。男らは、偽造書類を使用し公的な身分証を入手して定住し、同組織の他の者に隠れ家を提供する等していた。

2. 邦人に係る一般犯罪情勢

殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

- ア 殺人
邦人被害の事件は認知していない。
- イ 強盗
邦人被害の事件は認知していない。
- ウ 強姦
邦人被害の事件は認知していない。

3. テロ・爆弾事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

4. 誘拐・脅迫事件発生状況

期間中、誘拐・脅迫事件の発生はなかった。

5. 対日感情

良好である。

6. 犯罪発生状況

ムンバイ市警察本部は、2017年1月1日から12月31日までに認知した犯罪

件数について統計を発表した。主な犯罪の認知件数は以下のとおり。

○ 殺人	127件	(前年同時期対比	-17件)
○ 強盗	881件	(同	+96件)
○ 傷害	4,704件	(同	+198件)
○ 恐喝	195件	(同	-33件)
○ 強姦	751件	(同	+39件)
○ 窃盗	12,125件	(同	-258件)
○ チェーン・スナッチング(※)	169件	(同	-276件)

(※) 女性が首等に身につけている貴金属をひったくる犯罪

昨年からムンバイ市警察が対策を強化したチェーン・スナッチングについては、前年比で約37パーセント減少し、対策の効果が見られた。その他の犯罪については、殺人は若干減少したものの、強盗や、特に傷害の発生件数が大きく増加した。

他方、邦人に関する犯罪被害状況であるが、本年1月に、ゴア州を旅行中であった29歳の男性が、ビーチ付近でインド人らしき男に声を掛けられ親しくなり、一緒にカフェに行ったところ、そこで提供されたコーヒーを飲んで昏睡し、気がついた時には一緒に入店した男とともに旅券等の貴重品が入った小袋が無くなっていたという被害が発生した。同種の事件は過去にも多数発生していることから、見ず知らずの者に気を許して一緒に食事に行かない、飲食物の提供は断固として断る等細心の注意が必要である。

また、同じく本年1月、ムンバイ市内を旅行中であった76歳男性が列車で移動中、列車から降車しようとしたところ、乗車しようとしてきた大群の中の一人にカーゴパンツの太もも部分のポケットに入れていた財布を抜き取られる被害が発生した。男性はカーゴパンツのポケットのボタンの穴に財布の紐をくくりつけて入れていたが、その紐を引きちぎって持ち去られたことから、大勢の人がいる場所では財布等の貴重品はバッグ等に入れてしっかり抱える等の対策が必要である。